

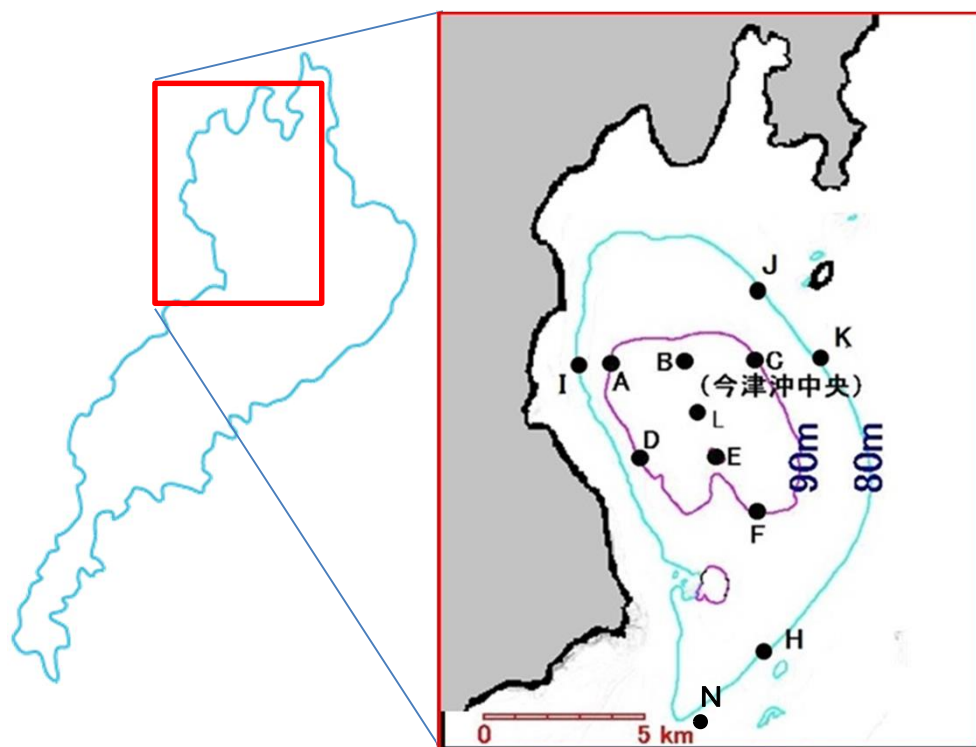
北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。

滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)
およびその周囲の調査地点

C、F、L点: 定期調査

A、B、C、D、E、F、L: 詳細調査

K、H、I、J、N(水深80m): 詳細調査

湖底直上1mを調査

※底層DOの状況に応じて、地点数等を変更することがあります。

令和8年度の北湖底層DO調査結果（速報）

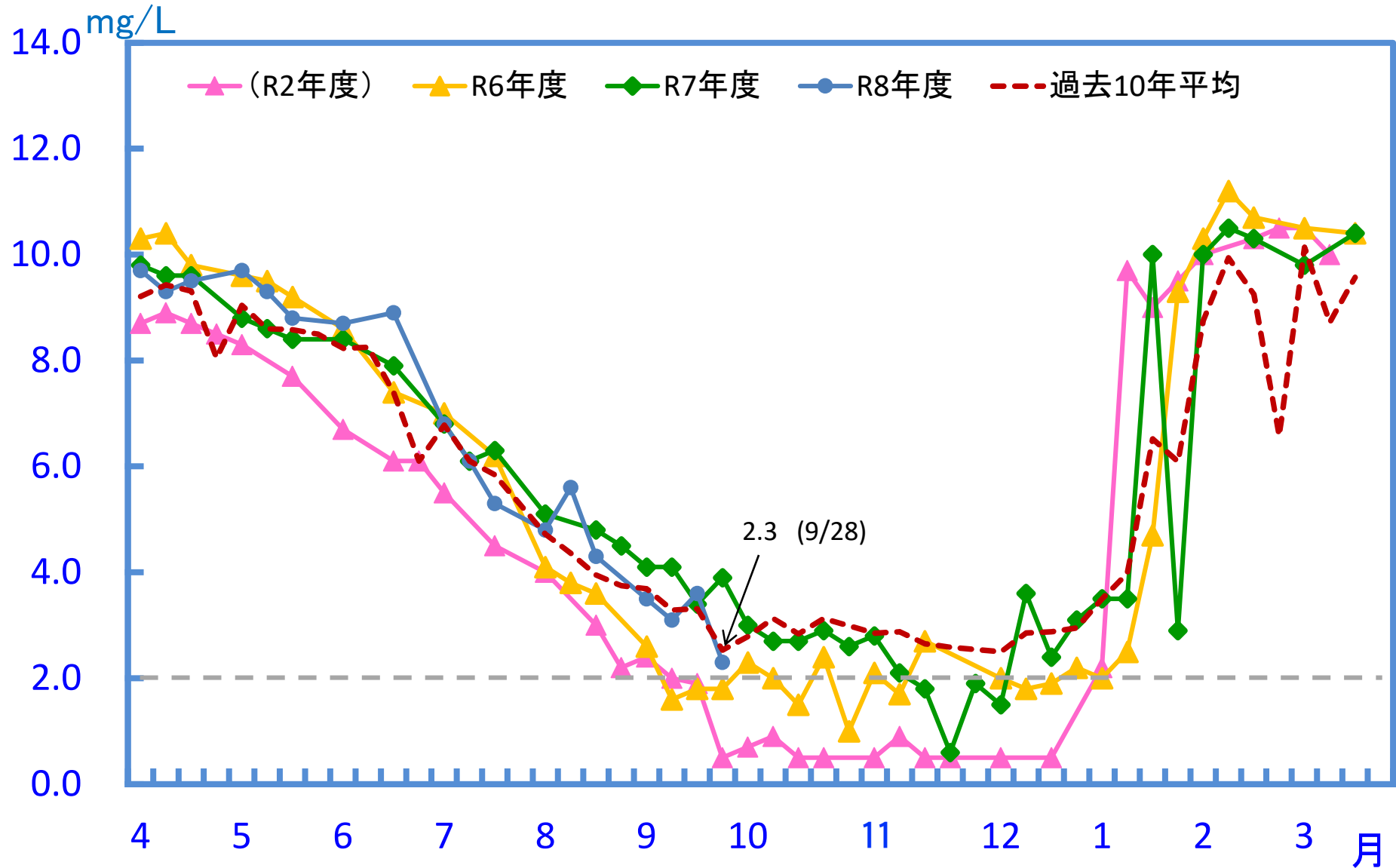
単位：mg/L

調査地点 \ 調査日	6月		7月			8月			9月			
	6/8	6/22	7/6	7/13	7/21	8/4	8/17	8/24	9/1	9/7	9/14	9/28
A					5.6		5.9			4.0		3.5
B										3.0		2.8
C(今津沖中央)	8.7	8.9	6.8	6.1	5.3	4.8	5.6	4.3	3.5	3.1	3.6	2.3
D					6.9		7.2			4.5		4.3
E										5.1		3.4
F	8.7	7.8	6.4		5.7	4.8	4.8		3.3	3.7	3.5	3.7
L(第一湖盆中央)	8.3	6.9	6.8		4.5	5.6	4.0		3.4	2.4	3.8	1.9

注1：表中の黄色部分は貧酸素状態（2.0mg/L未満）、オレンジ部分は無酸素状態（0.5mg/L未満）の結果を示します。

注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

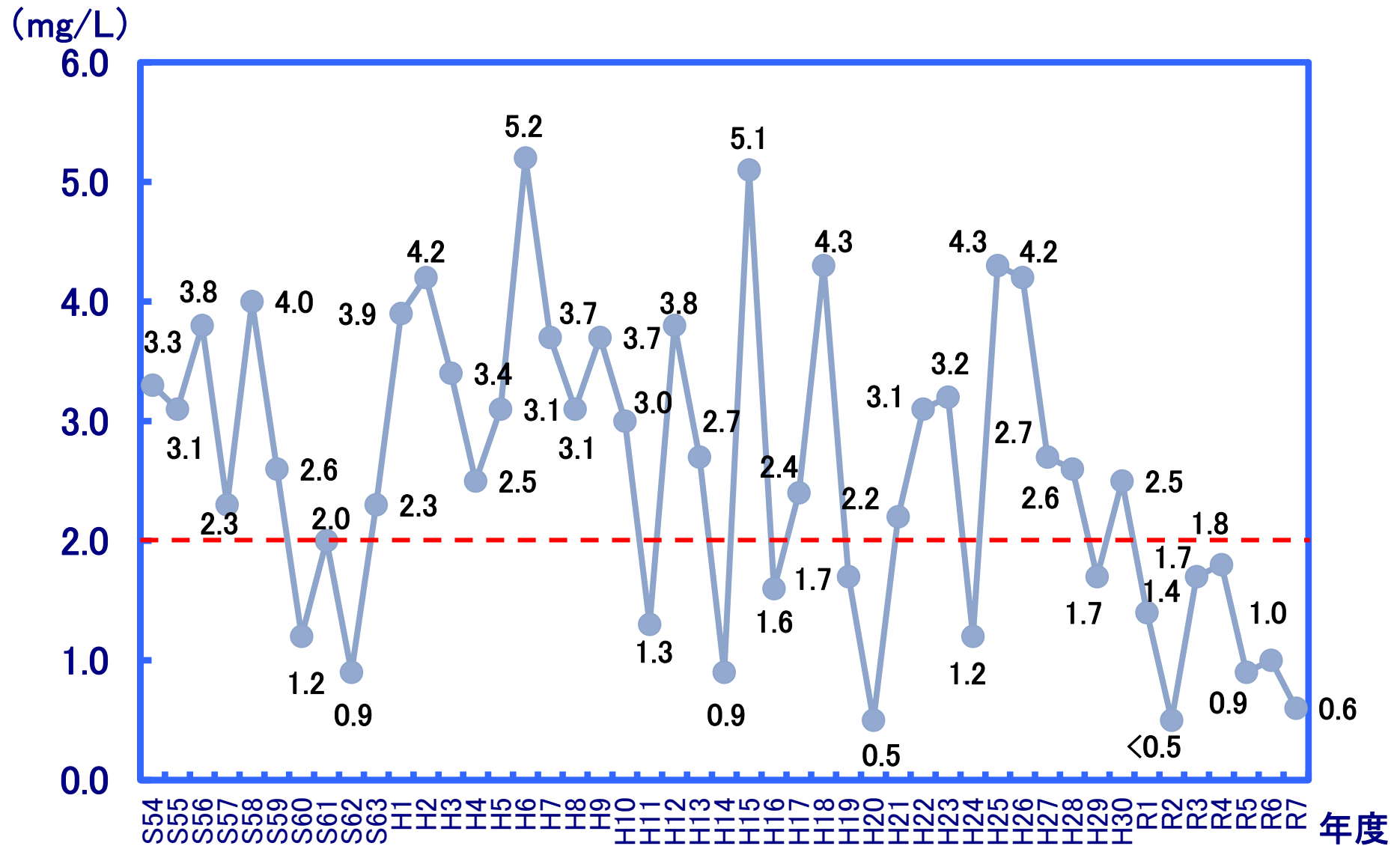
C点における底層DOの経月変動



注：令和2年度は、前年度の冬に全層循環が未完了であった影響により、例年よりも底層DOが低下した特異な年であるため記載しています。

データ：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

C点における底層DOの年度最低値



※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度
 データ: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター